

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290600034		
法人名	社会福祉法人 いわみ福祉会		
事業所名	グループホーム モモ(1ユニット)		
所在地	島根県江津市敬川町1230番地1		
自己評価作成日	平成29年10月20日	評価結果市町村受理日	平成30年1月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン
所在地	松江市上乃木7丁目9番16号
訪問調査日	平成29年11月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

GHモモは行動理念”利用者・家族との繋がり、地域との連携を大切に、笑顔ある居場所を作ります”を掲げ、日々利用者一人一人の思いにしっかり寄り添い、楽しく・安心に心身ともに活性化する生活を送って頂けるお手伝いをさせて頂いています。常に個々の”思い”に寄り添いながらゆっくり関わりを持つ事で、一人ひとりの生活スタイルを把握し、なるべくその人らしい生活が維持できるよう配慮しています。モモでは毎月の行事にも力を入れ利用者の意向を聞きながら計画し楽しみを持つ事で生活に張りがある様支援しています。ご家族様・地域の方々の協力を頂き夏祭り開催や文化祭参加等により開かれた施設作りにも取り組んでいます。職員は認知症介護実践者研修等の外部研修を積極的に受講し、また内部研修の内容も充実させ職員全員が専門性を持ってケアにあたる様心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅や畑に囲まれた静かな場所に隣の小規模多機能施設と同時にスタートして丸8年が経過。2年後にスタートした2つ目のグループホームほど広さはないが、十分に動けるスペースが確保され落ち着いた雰囲気がある。隣の小規模と合同で行事を開催したり、ボランティア利用での関わりも多く、小規模利用からそのままスムーズにグループホームの入所に繋がった方も多くなっている。利用者全員が女性で調理や習い事など今までの経験を生かせるような関わりを楽しんでいる様子が微笑ましく感じられた。今後に於いても、小規模を含めた2つのグループホームで協力のもと地元の方々との交流を継続することで、地域に根差した施設を目指していただきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年に一度法人理念研修を行い、また、職員会議等でGHの行動計画を確認し合い実践に繋げている	法人全体の理念はあるも、2つ目のグループホームの開所にあたり、身近に感じて動けるように、行動理念を作成している。年度当初の4月の職員会議の際、職員個々の目標に繋げていくように話し合いを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で開催される文化祭やお祭りに声を掛けて下さり参加させて頂いている。また、施設内行事にはボランティアとして参加して下さり交流を密にしている	地域の婦人会はお菓子や寿司づくり、民生委員は歌の訪問、その他にも紙芝居やぬいえなど、隣の小規模と合同で多くのボランティアとの交流の機会を持っている。特に夏祭りは盛大で地元より100人以上の方々参加があり盛大に開催されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンメイトになっている職員が学校などへ行き、研修会を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行い、報告を行っている。また、推進委員の方々から頂いた意見に耳を傾けサービス向上に繋げている	小規模と合同で定期に開催。それぞれの家族の代表者、婦人会長等の地域の代表者に包括の職員の参加を得て行っている。利用者の状況に施設の行事などの報告を行い、参加者との意見交換に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員のメンバーになって頂いているので、会議等で意見をいただき協力関係を構築している	運営推進会議には毎回参加があり、他にも認定調査の際も訪問がある。生活保護の方もあり市の担当者には報告を行い協力を得ている。困難事例についても相談を持ちかけたりといい関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危機管理委員会を立ち上げており委員会のメンバーを中心に定期的に会議や研修の場において対策等を周知するとともに職員の意識調査も行い、身体拘束をしない、より良いケアの実現に向けた取り組みを行っている	虐待を含めて危機管理委員会で3か月に1回目標設定をしており、毎月反省するようになっている。夜間以外は玄関の施錠も行わず、朝空気を吸いに出る方もあるが、見守るようにして拘束のないケアを実践している。センサーマット使用についても例を上げて検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	危機管理委員会のメンバーを中心に「不適切ケア防止目標」を掲げ全職員で取り組んでいる。月末には自身の振り返りをアンケートにて行いより良いケアに向けた取り組みをしている。施設内・外での研修にも参加し学ぶ機会が持てる様にしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修を施設内・外で行っている。実際、成年後見や日常生活自立支援などの制度を利用されている利用者もおられる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族には文書・口頭にて時間を掛けて説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には近況報告を行い、その際要望等聞く様になっている。意見が上がれば話し合いにて改善を図っている	遠方の方もいるが、月に1回の面会をお願いしており、その際行事等の写真を見てもらい日常の報告を行っている。小規模と合同で年に2回便りも出しており、意見を寄せてもらうよう呼びかけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	MTや職員会議・面談等にて職員からの意見を聞き、代表者会議にて改善すべき点など話し合いを行っている	管理者とは6月にストレスチェックを行いその際面談を実施している。施設長とは人事に関係することもあるが、今年度も年度末に個人面談を予定している。日々のミーティングや職員会議でも意見や提案について呼びかけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員との面談や自己申告制度を実施し職員が働きやすい職場環境作りに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の希望を取り入れ外部研修に参加したり、会議等で職員に伝達する事でそれぞれが知識を高めケア向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や部会に参加する事で他施設職員と情報交換ができ、より良いケアに繋がる様努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人のペースに合わせてゆっくりと関わりながら信頼関係が築けるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が話しやすい雰囲気を作り、安心して頂けるようしっかりと思いを受け止め信頼関係を築くよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族様からの要望にしっかりと耳を傾け、現在の状況に合った支援が提供できるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来る事・好きな事には積極的に参加して頂き、また、出来ないところは一緒に行えるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族との関係を大切にし、細かい事でも連絡を密に取りあっている。受診や外出・外泊、行事等の参加も呼び掛け絆が途切れない様努力をしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人宅への外出、馴染みの美容室などを利用し関係が途切れない様支援している	家族関係者の為にミニキッチンに簡易ベッド付の部屋の用意がある。現在も毎月家族が帰省して泊まって一緒に過ごす方や、友人との食事会に外出される方もあり、家族の協力も得て今までの関係が続くよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で作業等を行って頂いたり、時には外出やレクリエーションなどで交流を図り、コミュニケーションが取れる様支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談・支援を求められた際は出来る限り応じていきたいと思う		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ個別の時間を作りながら雑談の中からでも思いや希望を聞けるよう工夫をしている。困難な方についてはしぐさや表情から思いをくみ取る努力をしている。また、ご家族様からも聞き取りを行っている	入浴や買い物など個別に接することのできる時間や、日々の関わりで何気ない会話の中からも思いを聞き出すようにしている。認知が進み思いを伝えにくい場合には面会時に家族関係者に聞くようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用しながらご本人・ご家族様からお話を聞かせて頂く機会を持ち把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりや様子観察などから状態を見極める様努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	週1回のMTでケアの実践と振り返りを行っている。その際、職員が意見を出し合い、また、利用者や家族の意見も反映し、現状に即した計画を作成している	月1回の面会時や電話で様子を伝えた時などに意見を聞くようにしている。定期的モニタリングを行い関係者で話し合いながら計画作成に繋げている。	利用者本人に家族関係者等、できるだけ多くの参加者で介護計画の作成がなされるよう、検討いただきたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や申し送りノートに細かく記録を残し、また、口頭でも申し送りをしながら情報共有している。それらを基に介護計画の見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の意向になるべく添える様、柔軟な対応を心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	文化祭や健診などで地域に出掛けて行き、昔馴染みの方々と交流をしながら楽しむ様子支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人や家族の意向に沿って対応している。協力医の往診は2週間に1度ありその際状態の報告をしている。	かかりつけ医は継続しており、家族支援で受診する方や難しい場合は職員が対応している。精神科は往診を受けている。施設としても協力医を確保しており定期の往診がある他、夜間や緊急時にも指示が得られるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者のちょっとした変化に気づく眼を持ち必ず看護師に報告・連絡・相談する様徹底し、即座に適切な対応が出来る様にしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には家族や病院関係者と密に情報交換や相談を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様とは十分に話し合い事業所として出来る限りの事はしていきたい。本人の思いに寄り添い主治医との連携を図りながら支援していきたい	以前より全体の介護が軽くなっていることもあり、現在は対象者がいない。入所時も含めて重度化への対応については話をするようにしており、かかりつけ医の指示のもとに、一緒に検討していく意向を伝えている。	幅ひろい研修に取り組むことで、重度化や看取りの体制づくりに取り組んでいただきたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急処置については毎年繰り返し研修を行い全職員が対応できるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、避難訓練実施し、緊急時に対応ができる様にしている。災害に関しては地域住民、市役所職員からの意見を頂いたり、協力要請をお願いしている	小規模と合同で火災の訓練を年2回。他の災害についても以前水害の経験もあり、災害時の対応の研修も実施している。消防の自動通報装置の登録者も地域の消防団員の他、近隣の職員も含め、有事に備えた体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に年長者としての敬意を忘れない様言葉 使いや声のトーンに気を付けながら声かけ を行っている	理念に即した言葉がけ、行動になっている か、適さない行動になってはいないか等につ いてミーティングや会議場でも話をしたり、 ケアの基本として繰り返し研修に取り組んで いる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	利用者一人一人とゆっくり関わりながら意見 や希望が自然と出てくるような声かけを行っ ている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が強制的な声かけをするのではなく、 出来る限り本人の思いに添うように見守り・ 対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	入浴時や起床時の更衣の際には一緒に洋 服を選ぶ等し、本人らしさを尊重している また、カットについては希望の美容院へ出掛 ける等対応している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている	嗜好調査を行い日々のメニューに取り入れ ている。食事準備や片付けも一緒に行なっ たり、同じテーブルで一緒に食事もしている	全員女性で世話好きな方が多く、台所に立つこと が毎日の習慣になっており、野菜の皮むきから切 ること、盛り付けまで積極的に関わり、職員も一緒 にテーブルを囲んで楽しく食事を摂っている。メ ニューも利用者が交替で筆で書き壁に張り出して いる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	個々に合わせた食事形態を職員が把握し 提供している。水分・食事量をきちんとチェッ クし摂取量が少ない方に対しては補食を準 備するなど健康管理に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	毎食後の口腔ケアの声かけや一部介助、義 歯洗浄管理を行い、清潔を保てるよう支援し ている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握し、出来るだけトイレでの排泄が行えるよう声掛け、見守りを行っている	自分でトイレに行ける方は見守り形をとるようにしている。失敗のある人の中には、排泄の話題に触れられたくない思いが強いため、さり気なく入浴に繋げるようにし、不快にならないようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックをしサイクルを把握しながら運動や食事で自然に排便が促せる様取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来るだけ本人の希望に添って対応している。入浴の嫌いな利用者に対しては無理をせず、タイミングを見ながら声かけし、気持ちいいと喜んで頂けるように対応している	毎日午前中から入浴の時間としており、毎日入る方もある。1対1で個別で関わりを深める機会として有意義な時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれ自由に休息をとって頂けるよう努めている 気持ち良く眠れる様、日々のベットメイキングや寝具の清潔保持を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報はそれぞれの個人ファイルに常に新しい情報を入れている。薬の変更があれば申し送りを行い情報共有している。服薬の支援については本人の前で読み上げ確認し間違いのないよう努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者それぞれの得意分野を把握し作業への転換を行っている。外出等も取り入れ気分転換が常に図れる様努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩希望等は出来るだけ対応する様にしている 昔馴染みの友達との付き合いなども希望された際は送迎を行う等協力し繋がりが切れない様支援している 家族協力により外出や外泊の支援もしている	春と秋には外出行事をするようにしており、職員で話し合い決めている。普段は天候に合わせて、近所のコンビニやホームセンターなどに日用品を買いに出かけるようにしている。1対1の対応の為個別で関わりを深める時間としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	対応が困難な方については預かり金として管理させて頂いているが、本人管理が可能な方は家族・支援員了解の元、本人管理して頂いている施設管理でも、本人が希望されれば自由に買い物できるよう柔軟に対応している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば職員が中間に入り引き継ぎ支援をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者に少しでも季節を感じて頂けるよう季節の花を飾ったり、季節の壁画や小物を一緒に作っている 毎年夏にはグリーンカーテンを植えたり、常に室温計でチェックを行い管理をしている	台所に続いたダイルームには一段高くなった畳の部分があったが、利用者が少なくなったため座を落として広くしている。天井が高く外も見え明るく、適度な広さもあり落ち着ける空間になっている。床暖とエアコンで温度調節して快適に過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが落ちついて過ごせる様に食事スペースとコミュニケーションスペースと分けて、気のあった方と話せる様に工夫している。また、食事スペースは利用者の意見を取り入れて席を決めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には本人・家族に声を掛け自宅で使用されていたもの等なるべく馴染みのある物を持参して頂く様にしている。また、居室内は本人が好きな物を置くなどして、安心して過ごせる空間作りをしている	以前使用していた物の持ち込みを薦めており、タンスや小物入れ、テレビなどが置かれている。花や作品を飾ったり好きな物を置いたり、1人でも快適に過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が安全に自立した生活が送れる様必要個所に目印を付けたり、家具の配置位置など利用者それぞれのレベルに合わせた環境作りをしている		